県下会員の力結集

関係者が新たな門出祝う

県管工事業協組連が記念祝賀会

県管工事業協同組合連合会（青木英一郎会長）は7日、鹿児島市の城山観光ホテルで設立記念祝賀会を開いた。業界関連団体や発注官庁などから84人が出席。新たな門出を祝い、さらなる業界発展を祈念した。

（1面参照）

同連合会は、県下7協同組合の計183社で構成。今年5月7日に県知事認可を受け、同18日から業務を開始した。

祝賀会の冒頭、青木会長は「設立は念願だった」と喜びを語り、関係者へ感謝の意を表した。さらに「今後も県下会員の力を結集し、サービス強化に努めていきたい」と抱負を述べた。

来賓を代表し、上部団体の全国管工事業協同組合連合会の大澤規郎会長が「これまで培ってきた技能・技術にさらに磨きをかけ、ライフライン整備の一役を担う専門業者としてより一層の飛躍を」とエールを送った。このほか、布袋嘉之県商工労働部長や古木岳美鹿児島市副市長、金子方寿夫県議会議長、前衆議院議員の森山裕氏（同連合会顧問）らがそれぞれ祝辞を寄せた。

祝宴に入ると、アトラクションが行われるなど、会場は大いに盛り上がった。

関係者は同連合会の飛躍とより一層の業界発展を祈念した。

初年度役員は次の通り。

会長＝青木英一郎（鹿児島市管工事(協)）▽副会長＝下田平洋一（同）横山登（薩摩川内市管工事業(協)）▽専務理事＝鮫島昭司（鹿児島市管工事(協)）▽理事＝有村文應（奄美市水道事業(協)）中村隆昭（指宿市管工事業(協)）本白水千年（鹿屋上下水道工事(協)）川原英朗（曽於市管工事(協)）本田克行（姶良町管工事業(協)）▽監事＝土屋武美（鹿児島市管工事(協)）川村重春（川村法律事務所）

一層の飛躍を祈念した祝賀会
＝鹿児島市の城山観光ホテルで

かお…人

県管工事業協組連の初代会長に就任した　青木　英一郎さん

「地域のライフラインを守るのはわれわれの使命。強い意思を持って、さまざまな事業に取り組んでいきたい」。

公益法人改革に伴う業界再編が問われる中、その先駆けとして県管工事業協同組合連合会がこのほど設立。県内全域と水道局などとの災害協定締結や県下業務の一元化を柱に、7協同組合183社の会員企業が結束し、さらなる発展を目指す。

「業界の社会的、経済的地位向上のため、会長としての職務をまっとうしたい」。労務単価の問題や各自治体における申請業務の統一化など、直面する課題に必死に取り組んでいく決意だ。

国が打ち出した「スクール・ニューディール構想」による公共施設のエコ化推進にも期待を寄せる。学校のトイレなどもその一つ。「公共施設は、緊急時の避難場所として貴重な場所。だからこそ設備改修の必要性がある」と強く訴える。

アイテック㈱代表取締役、鹿児島市管工事業協同組合理事長

エコ化推進に期待

「ビルクリーニング技能士の日」記念式典

技術は〝日進月歩〟

県ビルメン協会

県ビルメンテナンス協会（野元一喜会長）は6日、鹿児島市のホテルレクストン鹿児島で「ビルクリーニング技能士の日」制定記念式典を開いた。発注官庁や全国ビルメンテナンス九州地区本部などから来賓が多数出席。技能士のさらなる地位・技術の向上を祈念した。

「ビルクリーニング技能士の日」は、同協会がビル清掃の指導的立場で就労している技能士の慰労と、技術者としての地位向上を目的に制定。

式典は今回で2回目。冒頭、野元会長は「日ごろ現場の第一線で頑張っている皆さんには感謝している。技術は〝日進月歩〟。さらなる高みを目指し、今後も自己研さんに努めてもらいたい」などと一層のレベルアップを求めた。

基調講演では、全国ビルメンテナンス協会九州地区本部の古賀修事業委員長が講話。また、大一産業㈱九州支店の外国一利氏が最新の技法や資機材等について説明した。

出席者は、技能士としての心構えや最新技術を学び、一層の技術向上へ決意を新たにした。

さらなる高みを目指して
＝「日進月歩」と呼び掛ける野元会長＝鹿児島市のホテルレクストン鹿児島で

川辺道路で現場見学会

地元住民ら　橋梁整備など理解

県南薩地域振興局建設部（種子島時邦部長）は4日、南九州市川辺町古殿地区の地域高規格道路（川辺道路）の建設現場で地元住民らを招いて現場見学会を開いた。

工事の目的や進捗状況などを実際に現場を視察しながら丁寧に説明した＝写真＝。

現場は、同市川辺町神殿地区の道路改築工事（川辺道路20の13工区）。見学会には、建設部から馬場高技術主幹をはじめ、岩田勝郎道路建設第二係長、平屋幹雄技術主査のほか、施工業者、地元住民ら約35人が参加。施工を担当するコーアツ工業㈱の胡麻篤氏が、整備が進む古殿高架橋（橋長200m、幅員9・26m、ポストテンション方式5径間連結PCコンポ橋）の概要について説明した。住民らは、セグメント桁や組立緊張状況などの説明に真剣に聞き入っていた。

参加者からは、「いつごろに供用開始されるのか」、「組立緊張について詳しく教えてほしい」などの質問があり、県と施工業者側が懇切丁寧に応じていた。

南薩振興局建設部

レイメイ藤井ソリューションフェア

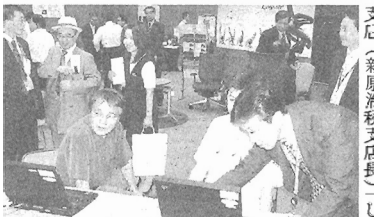
最新機器に関心

㈱レイメイ藤井鹿児島支店（新原治秋支店長）は7日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで「ソリューションフェア2009」を開いた。会場には、業務の効率化やセキュリティー等をテーマにした最新製品を展示、約160人の来場者が訪れ、関心を集めた＝写真＝。

今回のフェアは、①セキュリティー強化②業務効率アップのドキュメントソリューション③ワークショップ形式「見・触・感」をテーマに設定。ワークショップ、営業・業務支援、ドキュメント、学校ICT環境整備事業支援の4ゾーンに分け、約20社のブースを設置した。

このうち、学校ICT環境整備事業支援ゾーンでは、「スクール・ニューディール構想」に対応したプラズマ型電子黒板などを展示。地デジチューナー内蔵で、専用の電子ペンや指での入力、インターネットによる検索が可能な製品などが並んだ。来場者は実物に触れ、その利便性などに高い関心を示した。

同社事務機部キヤノン課の宮元陽一係長は「今後も顧客のニーズに合った製品、喜んでいただけるサービスの提供に努めていきたい」と話した。



短期訓練修了式

10人が新たな出発

鹿造園技術専門校

鹿児島造園技術専門校（坂上久美子校長）の短期訓練第72期生修了式が7日、鹿児島市の同校であった。3カ月間の訓練を終えた訓練生10人は、新たな目標に修了証書を手にした＝写真＝。

坂上校長は「短期間ではあったが、全課程を修了された皆さんに敬意を表したい。ここで培った知識や技術を生かし、3級造園技能士の資格取得といった次のステップに生かしてほしい」と式辞。郷原和喜県造園技能協会長、坂上多賀雄県造園技能士会長も「それぞれの地域で活躍を」と激励した。

坂上校長は、一人ひとりに修了証書を手渡したほか、別府稔さんと山下真幸さんに感謝状を授与。これを受け、修了生からは記念品が贈られた。

最後に、修了生代表の別府さんが「この日を迎えられたのも諸先生方の熱心なご指導のたまもの。今後も経験を積み重ね、立派な造園管理士になるよう頑張っていきたい」と謝辞を述べた。